

ラグビーワールドカップ 2019™
東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けた

横浜市の取組

令和元年度 取組状況

令和2年9月

横浜市

< 目 次 >

- 1 ラグビーワールドカップ 2019™ 東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けた「横浜市の取組」について P 1

- 2 令和元年度取組状況について
 - 「柱1 両大会の成功に向けてオール横浜でおもてなし」の取組 P 2
【3分野、10項目（①、②…）、22取組（ア、イ…）】

 - 「柱2 スポーツを通じて横浜を元気に」の取組 P 10
【4分野、9項目（①、②…）、28取組（ア、イ…）】

 - 「柱3 文化芸術の創造性を生かしたまちづくり」の取組 P 18
【4分野、8項目（①、②…）、11取組（ア、イ…）】

 - 「柱4 横浜を世界に魅せる」の取組 P 22
【4分野、10項目（①、②…）、27取組（ア、イ…）】

1 ラグビーワールドカップ 2019™ 東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けた「横浜市の取組」について

平成 28 年 11 月 17 日に官民連携組織「ラグビーワールドカップ 2019™ 東京 2020 オリンピック・パラリンピック 横浜開催推進委員会」を立ち上げ、「ラグビーワールドカップ 2019™ 東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けた横浜ビジョン～横浜のさらなる飛躍とレガシーの創造～」を策定しました。

そこに掲げられている「取組の 4 つの柱」に基づいて、横浜市が行う両大会に向けた取組や、取組から生まれるレガシーを、ラグビーワールドカップ 2019™ 東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けた「横浜市の取組」としてまとめました。

横浜市では、両大会の開催を契機に、スポーツ振興はもとより、文化芸術の振興、経済、教育分野、シティプロモーションなど幅広い取組により、次世代を担う子どもたちへの「贈り物」となるような有形無形のレガシーを遺していきます。

《取組の 4 つの柱（「ラグビーワールドカップ 2019™ 東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けた横浜ビジョン」より）》

- (1) 両大会の成功に向けてオール横浜でおもてなし
- (2) スポーツを通じて横浜を元気に
- (3) 文化芸術の創造性を生かしたまちづくり
- (4) 横浜を世界に魅せる

※「横浜市の取組」に掲載している取組の事業費については、毎年度の予算編成の中で決定します。

※「横浜市の取組」の取組期間は令和 2 年度までとなっており、両大会後も継続して取り組む予定のものについても計画期間に合わせて目標時期を記載しています。

2 令和元年度の取組状況について

柱1 両大会の成功に向けてオール横浜でおもてなし

分野:本市で開催される競技について、関係機関と連携・協力し、円滑に実施します(1/3)

主な取組の内容	目標時期	所管局	令和元年度の取組状況
<p>① 競技会場における各種計画（警備、安全確保、救急医療体制など）の策定・実施</p> <p>ア 危機管理・安全対策 組織委員会や警察等関係機関と連携を図りながら、選手、大会関係者、観戦客等の安全対策に取り組みます。 大会開催期間中の有事に備え各種訓練を実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会場周辺の安全対策の推進 ・組織委員会等と連携した各種計画の策定、大規模災害発生時を想定した事前対策の推進 ・関連施設等の防火・安全対策 ・各種災害対応訓練の実施（図上訓練、テロ災害対応訓練、警察など関係機関と連携した合同訓練など） 	H29～R 2	市民局 総務局 消防局 道路局 等	<p>【両大会共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危機管理プロジェクトの開催：6回 ・NBC災害対応関連資機材等の整備 ・多数傷病者対応関連資機材の整備 ・災害発生時の指揮機能の充実・強化（携帯電話や映像情報共有端末等の整備） ・大会専用救急自動車の整備 ・救急自動車積載資器材（自動体外式除細動器）の整備 ・救急自動車として運用するための指令プログラムの改修等を実施 <p>【ラグビーワールドカップ2019TM】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テロ等対策訓練の実施（情報受伝達訓練：7月、テロ対策訓練：8月） ・開催都市大会運営本部の設置（交通輸送、警備、ボランティア運営、イベント等各班の統括・指揮及び関係機関や大会組織委員会との調整を実施） ・RWC2019開催期間を中心とした警戒本部等の設置による危機管理体制の確立 ・消防特別警備の実施 <p>【東京2020オリンピック・パラリンピック】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織委員会と大会専用救急車の運用について協議 ・両競技場周辺に車止め・横断防止柵を設置（車止め：83本、横断防止柵：156m）
<p>イ 交通・輸送対策 組織委員会と連携し、選手、大会関係者の円滑な輸送を図るとともに、鉄道等公共交通機関における混雑緩和対策に取り組みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・警察、輸送事業者及び道路管理者等と連携した交通輸送体制の確立（公共交通機関の増発、終電延長他） ・本市の広報媒体等を活用した事前広報 	H29～R 2	市民局 道路局 交通局 等	<p>【両大会共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通輸送プロジェクトの開催：1回 <p>【ラグビーワールドカップ2019TM】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通機関との連携体制を構築 ・ボランティアによる案内誘導、早期来場の呼び掛け、交通総量抑制の広報を実施 ・横浜開催試合における警備スタッフ配置：延べ1,200人 <p>【東京2020オリンピック・パラリンピック】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会場周辺輸送ワーキング開催：2回 ・交通混雑緩和対策の試行として本市職員を対象に「2019年 オフピーク通勤」を実施 ・両会場の協議日程における市営地下鉄臨時列車の検討 ・埼玉スタジアムでの協議日程における市営地下鉄終電延長を検討

柱1 両大会の成功に向けてオール横浜でおもてなし

分野:本市で開催される競技について、関係機関と連携・協力し、円滑に実施します(2/3)

主な取組の内容	目標時期	所管局	令和元年度の取組状況
<p>ウ 救急医療体制の構築 大会開催期間中の救急医療体制を構築します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 大会開催期間中の救急医療体制の確立 テロ等大規模災害発生による多数負傷者発生時の搬送体制の確立 	H29～R 2	市民局 医療局 医療局病院経営本部 消防局 等	<p>【両大会共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> 横浜開催推進委員会専門委員会「医療救護検討部会」の開催：3回 NBC災害対応関連資機材等の整備【再掲】 多数傷病者対応関連資機材の整備【再掲】 災害発生時の指揮機能の充実・強化（携帯電話や映像情報共有端末等の整備）【再掲】 大会専用救急自動車の整備【再掲】 救急自動車積載資器材（自動体外式除細動器）の整備【再掲】 救急自動車として運用するための指令プログラムの改修等を実施【再掲】 【ラグビーワールドカップ2019™】 医療救護体制の構築 <ul style="list-style-type: none"> 医療救護本部設置 場外救護所設置 派遣型医療チーム配置 消防特別警備の実施【再掲】 【東京2020オリンピック・パラリンピック】 組織委員会と大会専用救急車の運用について協議【再掲】
<p>エ 外国人診療の支援 滞在中の外国人が安心して医療を受けられるような体制を整備します。</p> <ul style="list-style-type: none"> JCI・JMIP（※）認証取得に向けた病院支援 <ul style="list-style-type: none"> ※JCI：医療の質や安全性、継続的な品質改善を評価する国際的な医療機能評価のこと。 ※JMIP：医療機関における多言語対応や異文化・宗教への配慮等の体制を評価する制度のこと。 市内の病院・夜間急病センター等に向けた電話医療通訳サービスの導入 外国語対応可能な医療機関の調査・情報提供 医療機関向け外国人患者対応セミナーの実施 	～R 2	医療局 医療局病院経営本部 国際局	<ul style="list-style-type: none"> JMIP認証取得支援補助金の交付（1医療機関：横浜市立みなと赤十字病院） 希望する市内医療機関に電話医療通訳サービスを提供（24時間16言語対応）し、市ホームページ上で公表 医療機関向けセミナーの開催：1回（参加者：187名）

柱1 両大会の成功に向けてオール横浜でおもてなし

分野:本市で開催される競技について、関係機関と連携・協力し、円滑に実施します(3/3)

主な取組の内容	目標時期	所管局	令和元年度の取組状況
<p>② 競技会場における必要な整備やアクセスルートなども含めたバリアフリーや屋外広告物への対応</p> <p>ア 会場整備 会場施設等の必要な改修を行うとともに、障害者や高齢者をはじめ、誰もが円滑に移動でき、安全に観戦できるよう、バリアフリー対応の充実に取り組みます。</p> <p><横浜国際総合競技場> ・ラグビーワールドカップ2019TM決勝戦の開催に向けた照明設備を更新し、競技場の魅力づくりを図ります。 ・国際大会の開催時に安全や機能を確保するため、競技用の場内放送設備等の保全工事やトイレの増設、洋式化やテレビ放送関連設備の更新などを実施します。</p> <p><横浜スタジアム> ・野球・ソフトボールの開催に向けて、大会組織委員会等と調整を行います。</p>	~R 2	市民局 健康福祉局 環境創造局 道路局 等	<p>【横浜国際総合競技場】</p> <ul style="list-style-type: none"> 観客席の更新、受変電設備の更新、建築保全改修、機械設備の更新などを実施 記者席、実況席、コーチボックス席などの設置（仮設工事） フィールドの周辺区域に天然芝による拡張を実施 <p>【横浜スタジアム】</p> <ul style="list-style-type: none"> 横浜スタジアムの増築・改修工事の中で、エレベーターの増設等バリアフリーの推進に向けた工事進完了を確認し、組織委員会との情報共有を実施 <p>【両会場共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大会会場周辺において、誘導ブロック改修、歩道整備を実施 誘導ブロック改修：46m² 歩道整備：184m²
<p>イ 屋外広告物への対応 両大会スポンサーのマーケティング活動を妨害しないよう、アクセスルート上の屋外広告物について組織委員会と連携して対応します。 また、景観維持と安全対策のため、期間前と期間中に会場周辺や市内主要駅周辺での路上違反広告物の除却を強化します。</p>	R元・2	市民局 都市整備局	<p>【ラグビーワールドカップ2019TM】</p> <ul style="list-style-type: none"> 主要幹線道路や鉄道駅周辺を中心に、路上違反広告物の撤去を実施 アクセスルート上の屋外広告物等について、組織委員会と連携して撤去、マスキングを実施 組織委員会と警察と連携したアンブッシュマーケティングの巡視活動を実施
<p>③ 組織委員会と連携した大会運営ボランティアの育成・活用</p> <p>ア 大会運営ボランティアの育成・活用 組織委員会と連携し、大会運営を担うボランティアの育成に取り組みます。</p>	H29~R 2 (R3以降も継続予定)	市民局	<p>【両大会共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ボランティアプロジェクトの開催：1回 <p>【ラグビーワールドカップ2019TM】</p> <ul style="list-style-type: none"> eラーニングや各種トレーニングを実施 大会時の運営（競技場周辺やファンゾーンへの案内誘導、ファンゾーン運営補助など） サンキューパーティーの実施：12月 横浜スポーツボランティアセンターへの登録勧奨 <p>【東京2020オリンピック・パラリンピック】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大会組織委員会との連携及び情報収集

柱1 両大会の成功に向けてオール横浜でおもてなし

分野:両大会に向けて機運を醸成し、大会を盛り上げます(1/2)

主な取組の内容	目標時期	所管局	令和元年度の取組状況
<p>① 機運の醸成と両大会を盛り上げるための広報・イベントの実施</p> <p>ア 既存広報誌、市ホームページを活用した広報 広報計画を策定し、「広報よこはま」等の既存広報ツールや地下鉄駅を活用した効果的な大会のPRを行います。 競技開催予定都市である横浜を紹介するPR動画を作成し、イベント等で放映することにより機運の醸成を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報計画の策定 ・「広報よこはま」の活用 ・PR動画の作成・活用 ・地下鉄駅を活用したPRの実施 他 	<p>～H29 ～R 2 H29～R 2 R元・2</p>	<p>市民局 交通局</p>	<p>【ラグビーワールドカップ2019TM】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報よこはまへのコラム連載（隔月） ・PR動画の作成と活用 ・大型広告の掲出（新横浜駅・みなとみらい駅、桜木町駅） ・特設ウェブサイト「横浜ラグビー情報」での情報発信 ・SNS（twitter、instagram、facebook）での情報発信 ・大会期間中のPV（累計265万PV、平均3万PV/日） <p>【東京2020オリンピック・パラリンピック】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報よこはまへの情報掲載 ・地下鉄広告枠を活用したPRの実施 ・特設ウェブサイトでの情報発信 ・SNS（Twitter）での情報発信
<p>イ 情報発信拠点の設置 市内の主要駅にPRスペース等を設置し、両大会の認知度の向上や、大会関連イベントの広報に取り組みます。</p>	<p>H30～R 2</p>	<p>市民局 等</p>	<p>【ラグビーワールドカップ2019TM】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ターミナル駅などでの交通事業者、商業施設等と連携した情報発信 <p>【東京2020オリンピック・パラリンピック】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地下鉄広告枠を活用したPRの実施 ・PRボックスを活用したPRの実施
<p>ウ 盛り上げイベント等の実施 節目ごとのイベントの開催や、各区における盛り上げイベント等の実施により、両大会に向けた機運醸成を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・限定乗車券の販売 ・節目ごとのカウントダウンイベントの開催 ・カウントダウンボードの設置 ・各区における機運醸成イベントの実施 ・市民参加型レガシープロジェクトの実施 	<p>R元・2 ↓ H30～R 2 H29～R 2 H30～R 2</p>	<p>市民局 交通局 等</p>	<p>【ラグビーワールドカップ2019TM】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カウントダウンイベント実施（開幕100日前、1か月前、1週間前、決勝100日前） ・カウントダウンボード稼働：7か所（新横浜は大会開幕後にデザイン変更） ・各区での巡回展示を実施 ・希望区でのパブリックビューイング実施 <p>【東京2020オリンピック・パラリンピック】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年前キャンペーン：7・8月（コアイベント7/13、8/17（神奈川県と両主催）） ・200日前キャンペーン：1月（セレモニー1/6、コアイベント1/25） ・全18区への予算配付（8,450千円） ・企画乗車券の検討
<p>エ 既存イベントと連携した機運醸成 区民まつりや消防出初式等各種既存イベントと連携したPR活動や、パラリンピック競技体験等を実施します。</p>	<p>～R 2</p>	<p>市民局 各区局 等</p>	<p>【ラグビーワールドカップ2019TM】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種イベントへのPRブース出展・体験イベントの実施 <p>【東京2020オリンピック・パラリンピック】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存の大規模イベントと連携し、ブース出展やパラリンピック競技体験会等を実施：38回
<p>オ テストイベントと連携した機運醸成 テストイベントにおけるPR活動の実施により、大会本番に向けた盛り上げを高めます。</p>	<p>H30・R元</p>	<p>市民局 等</p>	<p>(H30で事業終了)</p>

柱1 両大会の成功に向けてオール横浜でおもてなし

分野:両大会に向けて機運を醸成し、大会を盛り上げます(2/2)

主な取組の内容	目標時期	所管局	令和元年度の取組状況
カ 街の装飾 バナー等の装飾によるPR活動を行います。 ・競技会場や競技会場周辺及び市内主要駅等へのバナーなどの装飾によるPR活動 ・地元商店街と連携したPR活動 ・まちなみラッピングの検討・調整	R元・2	市民局 経済局 交通局 資源循環局 工事实施所管局 各区 等	【ラグビーワールドカップ2019TM】 ・広告物活用地区制度を活用し、バナーフラッグの掲出などの都市装飾を実施（競技会場周辺、ファンゾーン会場周辺、ラストマイル上、（旧）市庁舎周辺など） 【東京2020オリンピック・パラリンピック】 ・オリンピック開幕200日前に（旧）市庁舎周辺にバナー掲出による都市装飾を実施
キ 市民参加による聖火リレー 東京2020大会に関連して実施される聖火リレーについて、多くの市民が大会に関わる機会を増やすため、リレールートの誘致に取り組みます。	R 2	市民局	【東京2020オリンピック・パラリンピック】 ・「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会」や「神奈川県実行委員会」における聖火リレー全般の検討状況把握及び庁内情報共有を実施
ク パブリックビューイングの実施 競技会場で観戦できない方々のためにパブリックビューイングを開催し、多くの市民が感動を共有できる環境を整えます。	H29～R元	市民局 等	【ラグビーワールドカップ2019TM】 ・ファンゾーンの実施（来場者数：153,700人、全13日間） ・各区による大会パブリックビューイングの実施：7回
ケ メダル制作に向けた小型家電等の回収 市民のみなさまがお持ちの使用済み小型家電等には、メダルの制作に必要な金属が含まれています。組織委員会と連携し、東京2020大会で使用するメダル制作に向け、小型家電等の回収を進めます。	H29～R元	市民局 資源循環局	(H30で事業終了)
② 来訪者をおもてなしするボランティアの育成・活用に向けた取組 ア 都市ボランティアの育成・活用 組織委員会等と連携しながら、都市ボランティアの育成や活用に取り組みます。 ・活動内容、活動場所、規模の検討 ・申込方法、時期、研修体制、ユニフォーム、マニュアル等の検討 ・在住外国人の語学力等を活かし、「おもてなし」ボランティアの担い手として活躍していただくための講座を実施	H29～R 2	市民局 国際局 等	【東京2020オリンピック・パラリンピック】 ・ボランティアプロジェクトの開催：1回【再掲】 ・オリエンテーション（説明会、面談）の実施 ・キックオフイベントの実施 ・共通研修の実施 ・任意研修の実施（新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、一部実施、多くは動画研修に移行） ・在住外国人向けボランティア講座の開催：のべ64人参加
③ ラグビーワールドカップ2019TMファンゾーンの設置による来訪者へのおもてなし ア ファンゾーンの設置 ラグビーワールドカップ2019 TM の開催に伴い、公共のエリアでパブリックビューイングなどラグビーファン向けにラグビーワールドカップに関係する体験を提供する「ファンゾーン」を設置します。	R元	市民局	【ラグビーワールドカップ2019TM】 ・ファンゾーンの設置（来場者数：153,700人、全13日間）【再掲】
④ 東京2020ライブサイトの設置による来訪者へのおもてなし ア 東京2020ライブサイトの設置 東京2020オリンピック・パラリンピックの期間中、競技会場以外で、大型スクリーンを使用した競技中継（パブリック・ビューイング）を中心に、ステージイベント、競技体験、パートナー企業のブース出展、飲食や大会グッズの販売等が行われるライブサイトを設置します。	R 2	市民局	【東京2020オリンピック・パラリンピック】 ・大会組織委員会と協定書を締結 ・ライブサイト会場を「横浜市役所アトリウム（新市庁舎）」及び「横浜文化体育館決定」に決定 ・ライブサイト運営計画の策定

柱1 両大会の成功に向けてオール横浜でおもてなし

分野:トレーニングキャンプの受入やホストタウンの取組等を通じた国際交流を進め、様々な国の人々と理解し合い協働できる人材の育成などに取り組みます(1/3)

主な取組の内容	目標時期	所管局	令和元年度の取組状況
<p>① トレーニングキャンプの受入に向けた調整</p> <p>ア 事前キャンプの受入</p> <p>関係団体と連携し、東京2020大会に出場する英国代表チームの事前キャンプを受入れます。併せて、国際都市としての更なる発展に向けて新たな受入れについて検討します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設利用契約の締結 大会開催時の事前キャンプの受入 	<p>H29 R 2</p>	<p>市民局 国際局</p>	<p>【ラグビーワールドカップ2019™】</p> <ul style="list-style-type: none"> 公認チームキャンプ地として受入準備 地域との交流の機会を創出 世界6か国・地域から子どもたちを招き、ラグビーを通じた国際交流「こどもラグビーワールドフェスティバル2019」を実施 来浜するスコットランド代表ヘッドコーチを招聘して、市内高校ラグビー部員向けのラグビークリニックを実施 <p>【東京2020オリンピック・パラリンピック】</p> <ul style="list-style-type: none"> 英国水泳代表チームによる世界水泳に向けたプレ事前キャンプ実施 英国オリンピック代表チームおよび英国パラリンピック代表チームとの調整、協議、視察の受入れ、市長表敬などの実施 英国事前キャンプに向けた横浜国際プールの設備更新実施 英国事前キャンプに向けたボランティア募集実施 アフリカ諸国事前キャンプに向けた調整、協議の実施

柱1 両大会の成功に向けてオール横浜でおもてなし

分野:トレーニングキャンプの受入やホストタウンの取組等を通じた国際交流を進め、様々な国の人々と理解し合い協働できる人材の育成などに取り組みます(2/3)

主な取組の内容	目標時期	所管局	令和元年度の取組状況
<p>② ホストタウン構想の実施などによる国際交流の推進</p> <p>ア ホストタウンの取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英国のホストタウンとしての取組を通じ、英国関係者等と市民の皆様の交流機会を創出します。 新たな事前キャンプの受入れに伴うホストタウン登録について検討します。 <ul style="list-style-type: none"> ○英国関係者と連携した交流 ○大会等に参加するために来日する英国代表選手との交流 ・イスラエル国、チュニジア共和国、ベナン共和国、ボツワナ共和国、コートジボワール共和国のホストタウンとしての取組を通じ、各国関係者等と市民の皆様の交流機会を創出します。 <ul style="list-style-type: none"> ○各国オリンピック選手等との交流 ○各国関係者との交流 ○オリンピック・パラリンピアンとの交流 	<p>H29～R 2 R元～2</p> <p>H30～R 2</p>	<p>市民局 国際局 等</p>	<p>【ラグビーワールドカップ2019TM】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公認チームキャンプ地として受入準備【再掲】 ・地域との交流の機会を創出【再掲】 ・世界6か国・地域から子どもたちを招き、ラグビーを通じた国際交流「こどもラグビーワールドフェスティバル2019」を実施【再掲】 ・来浜するスコットランド代表ヘッドコーチを招聘して、市内高校ラグビー部員向けのラグビークリニックを実施【再掲】 【東京2020オリンピック・パラリンピック】 ・世界トライアスロンシリーズ横浜大会及びプレ事前キャンプのため来日した英国代表チームとの交流事業実施 ・英国コベントリー市児童と市内小中高生の交流実施 ・BBCスコティッシュ交響楽団と市内小学生との交流など英国大使館やブリティッシュカウンシルと連携した交流事業実施 ・ガーデンネックレス横浜や区民まつり等でホストタウンPRのブース出展 ・川崎市・慶應義塾大学と共同製作した英国応援PR動画を市営地下鉄や市内施設等で放映 ・本市WEBサイトに、市内小学生記者による英国事前キャンプに関連した取材と記事執筆依頼 等 ・アフリカ等の各国とのホストタウンとしての取組を通じた交流を実施 ・イスラエル国 <ul style="list-style-type: none"> ○R2年1月に駐日大使館次席公使が国際局を訪問 ・チュニジア共和国 <ul style="list-style-type: none"> ○R1年6月にJICAチュニジア事務所長が市内小学校を訪問 ○R1年10月に駐日大使が市会議長、副市長と面会 ○R2年2月に駐日大使夫人が市内小学校を訪問 ・ベナン共和国 <ul style="list-style-type: none"> ○R1年5月に市内小学生が「アフリカとの一校一国」の取組成果を発表 ○R1年7月に駐日大使が市内小学校を訪問 ・ボツワナ共和国 <ul style="list-style-type: none"> ○R1年8月にソフトボールチーム選手が来日し、小学生と交流 ○R1年11月に都筑区民まつりにボツワナ大使館が出店等 ○R2年1月にパネル展示をイベント等にて開催 ・コートジボワール共和国 <ul style="list-style-type: none"> ○R1年8月に首相とアビジャン自治区の知事が来浜 ○R2年2月に政府・病院関係者6名を含むプロジェクト関係者9名が来浜 ○R2年2月に首相府付予算・国有財産省副官房長が来浜 ・ブルガリア共和国 <ul style="list-style-type: none"> ○R1年5月にほどがや花フェスタでブルガリア紹介ブースを出展等 ○R1年7月に駐日大使が市長を表敬訪問 ○R1年11月に区役所前ミニコンサートでブルガリア民族音楽団体が演奏 ○R2年2月にブルガリア小学校特別授業を区内4校で実施 ・モロッコ王国 <ul style="list-style-type: none"> ○R1年5月に駐日大使が「アフリカ開発学生会議in 横浜」で講演 ・アルジェリア民主人民共和国 <ul style="list-style-type: none"> ○R1年7月に大使館員が市内小学校を訪問

柱1 両大会の成功に向けてオール横浜でおもてなし

分野:トレーニングキャンプの受入やホストタウンの取組等を通じた国際交流を進め、様々な国の人々と理解し合い協働できる人材の育成などに取り組みます(3/3)

主な取組の内容	目標時期	所管局	令和元年度の取組状況
<p>③ 文化の異なる人々と協働する姿勢を身につけた人材の育成</p> <p>ア グローバル人材の育成等</p> <p>グローバル人材の育成に向けた学校教育における取組や、多文化共生活動への支援を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校1年生からの外国人講師による小学校国際理解教室の実施や国際交流の推進 ・小中学校等への英語指導助手（AET）配置等による英語教育の推進 ・各校に在籍する外国籍等児童生徒との交流を通じた異文化理解・多文化共生意識の醸成 ・グローバル人材の育成に向けた、授業等における外国人との異文化交流の実施 ・来訪外国人のおもてなしや異文化理解の促進などに取り組む市民団体やNPOの取組への支援の実施 	<p>～R 2 (R3以降も継続予定)</p> <p>H29～R 2</p>	<p>教育委員会 国際局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人講師配置学校数：小学校全学校及び特別支援学校10校 ・AETの配置校数：小中学校等全校、特別支援学校11校 ・外国籍及び外国につながる児童生徒の人数：10,103人 ・国際教室担当教員配置校：142校 ・英語教育：英語指導助手の全校配置、英検の活用 ・国際交流プログラム：市立高校7校で実施 ・海外大学進学支援事業：全学年で実施 ・スーパーグローバルハイスクール受託：1校 ・スーパーグローバルハイスクール指定終了後、その取り組みを承継、発展させる横浜版SGHの推進：1校 ・来訪外国人のおもてなしや異文化理解の促進等に取り組む5件の市民活動の支援

柱2 スポーツを通じて横浜を元気に

分野:ラグビー競技の普及を図りながら、スポーツへの意欲向上と地域スポーツの振興に取り組みます(1/3)

主な取組の内容	目標時期	所管局	令和元年度の取組状況
<p>① <u>オリンピック・パラリンピアン、ラグビー日本代表等トップアスリートと小・中学生等との交流を通じた運動意欲の向上</u> <u>ア オリンピック・パラリンピック出場経験者の派遣</u> 東京2020大会の開催に向けて、オリンピック・パラリンピック出場経験者を招へいたイベントを開催するなど、市内のスポーツ振興と大会に向けた機運の醸成を図ります。</p>	<p>～R2 (R3以降も継続予定)</p>	<p>市民局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピアンによる学校訪問を実施：小学校・特別支援校35校、中学校18校 ・来訪したオリンピック・パラリンピアン：24人 ・オリンピック・パラリンピアンと触れ合った児童・生徒の数：22,165人
<p><u>イ 小中学生とオリンピック・パラリンピック出場経験者等との交流</u> はまっ子スポーツウェーブ（小学校体育大会・小学校水泳大会等）や中学校総合体育大会などにオリンピック・パラリンピック出場経験者等トップアスリートを招へいし、演技の実演や講演を実施すること及びオリンピック・パラリンピック教育推進校での取組を通して、大会に向けた機運の醸成を図ります。</p>	<p>～R2 (R3以降も継続予定)</p>	<p>市民局 教育委員会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市教委主催の体育行事等にオリンピック・パラリンピアン等のトップアスリートを招へいし、小中学生との交流を実施（招へい大会数：7、招へい人数（団体含む）：8） ・オリンピック・パラリンピック教育推進校として30校（小24、中4、高1、特1）を設置し、年間を通してオリパラ教育を重点的に実施 ・市立学校全校を対象に成果報告会を開催 ・オリンピック・パラリンピック教育推進校向けに、パラスポーツ体験・パラアスリート講演会等のパラリンピック競技啓発事業を実施：23件（うちトップアスリート連携8件）
<p><u>ウ 市内小学校にラグビー選手やタグラグビー指導者を派遣</u> ラグビーワールドカップ2019TMの開催に向けて、市内小学校にラグビーワールドカップ出場経験者やタグラグビー指導者を招へいし、講演やタグラグビーを実施することで、大会に向けた機運の醸成を図ります。</p>	<p>～R2 (R3以降も継続予定)</p>	<p>市民局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・元ラグビー日本代表選手が市内の小学校（各区1校計18校）を訪問し、自らの経験等を語る講義及びタグラグビー体験の授業を実施（講師：今泉清氏、北川俊澄氏、齊藤祐也氏氏、廣瀬俊朗氏ほか） ・親子でラグビーに親しんでもらうため、元ラグビー日本代表選手による親子ラグビー教室を実施：3回
<p><u>エ トップアスリート等との連携・協力</u> JOCパートナー都市協定を通じてのオリンピックやプロスポーツチームあるいはトップアスリートが立ち上げたNPO法人等と連携・協力することにより、トップアスリートを学校や地域に派遣し、子ども達や多くの市民が一流のアスリートと触れ合う機会を提供し、スポーツへの関心を高めます。</p>	<p>～R2 (R3以降も継続予定)</p>	<p>市民局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・JOCオリンピック教室の実施：1校（実施校：横浜吉田中学校、派遣オリンピック：長岡千里氏（ボブスレー）、勅使川原郁恵氏（スケート・ショートトラック）、オリンピック・パラリンピアンと触れ合った生徒の数：145人） ・市内の学校や地域のイベントにおいて、選手等のチーム関係者によるスポーツ教室等を開催し、市民に対してスポーツに親しむ機会を提供 ・各チームが企画する市民招待等の広報を連携して進めることで、市民に対する観戦機会を創出
<p><u>オ 大規模スポーツイベントの誘致・開催</u> 国際大会や全国大会などの大規模イベントの誘致に取り組み、市民のスポーツ観戦やボランティア活動に参加する機会を増やします。また、魅力的な大規模イベントを誘致・開催することにより、世界や全国に向けた横浜の知名度のアップや、経済及び地域の活性化などにも貢献していきます。</p>	<p>～R2 (R3以降も継続予定)</p>	<p>市民局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模スポーツイベントの開催：13回 ・大規模スポーツイベントの参加者、観戦者数：608,009人

柱2 スポーツを通じて横浜を元気に

分野:ラグビー競技の普及を図りながら、スポーツへの意欲向上と地域スポーツの振興に取り組みます(2/3)

主な取組の内容	目標時期	所管局	令和元年度の取組状況
カ スポーツ遺産の保存・活用 横浜は、テニス、ラグビー、競馬、スポーツクラブ等、多くのスポーツ文化の発祥の地であり、その歴史や伝統を継承していきます。 また、FIFAワールドカップ、ラグビーワールドカップ、オリンピック・パラリンピックの世界三大スポーツイベントの開催実績を持つこととなる横浜国際総合競技場等のスポーツ施設やボランティア等の人的資源、大規模スポーツイベントの運営知識やノウハウなどのスポーツ遺産を未来の横浜の子どもたちへの財産として残します。	～R2 (R3以降も継続予定)	市民局	・横浜市スポーツボランティアセンター登録者数：12,977人 (R2.3.31現在)
② 市民参加型スポーツイベントの充実や横浜文化体育館再整備等による場の拡充など、地域スポーツの振興 ア スポーツボランティアの育成・支援 スポーツイベント等の運営を支えてくれるスポーツボランティアを育成・支援します。また、スポーツボランティアが継続的な活動ができる仕組みを整え、ボランティア意識の醸成を進めていきます。 「横浜市スポーツボランティアセンター」を設置し、市民が積極的・自発的にスポーツに関わる体制づくりやその支援を行います。	H29～R2 (R3以降も継続予定)	市民局	・横浜市スポーツボランティアセンター登録者数：12,977人 (R2.3.31現在) 【再掲】
イ 市民参加型スポーツイベントの充実 スポーツ・レクリエーションフェスティバル、ビーチスポーツフェスタ、市民大会・区民大会など、各競技団体と連携しながら、市民が気軽に参加でき、日頃の練習の成果を発揮する機会となる市民参加型スポーツイベントの充実を図るとともに、初心者が安心して参加できる環境を整えます。	～R2 (R3以降も継続予定)	市民局 各区	・スポーツ・レクリエーションフェスティバル2019 参加者数：47,537人 ・YOKOHAMA ビーチスポーツフェスタ2019 参加者数：5,333人 ・市民体育大会・マスターズスポーツ大会 参加者数：43,447人 ・各区交流スポーツ大会 参加者数：1,556人 ・第10回横浜シーサイドトライアスロン大会 参加者数：661人
ウ 大規模屋内スポーツ施設(スケート場、横浜文化体育館(メインアリーナ施設・サブアリーナ施設(横浜武道館)))の再整備 関内・関外地区の街づくりを進める中で、横浜文化体育館を再整備します。その際、武道を行うことのできる環境を整備します。 また、老朽化した神奈川スケートリンクの再整備を行いました。今後施設のさらなる有効活用を行います。	～R2 (R3以降も継続予定)	市民局	・設計業務(メインアリーナ) ・整備工事：地上躯体工事、外装工事、屋根工事、内装工事、外構工事、電気設備工事、機械設備工事(サブアリーナ)
エ スポーツ情報等の提供 市民が「する」「みる」「ささえる」といった様々なスポーツ活動に参加しやすくなるよう、スポーツイベントの開催情報やスポーツボランティアに関する情報、スポーツ指導者、スポーツ施設の利用に関する情報等を横浜市のホームページや広報紙、または、(公財)横浜市体育協会のスポーツ情報サイト「ハマスポ」やホームページ等を通じて提供します。また、携帯端末等の身近な媒体でも情報が提供できるようにしていきます。	～R2 (R3以降も継続予定)	市民局	・スポーツ情報サイト「ハマスポ」の運営(年間アクセス数：3,604,141件) ・SPORTSよこはまの発行(発行部数：180,000部)

柱2 スポーツを通じて横浜を元気に

分野:ラグビー競技の普及を図りながら、スポーツへの意欲向上と地域スポーツの振興に取り組みます(3/3)

主な取組の内容	目標時期	所管局	令和元年度の取組状況
<p>③ <u>ラグビーワールドカップ2019TM開催を契機としたラグビーの普及・啓発</u> <u>ア 小学校派遣事業（市内小学校にラグビー選手やタグラグビー指導者を派遣）【再掲】</u> ラグビーワールドカップ2019TMの開催に向けて、市内18小学校にラグビーワールドカップ出場経験者やタグラグビー指導者を招へいし、講演やタグラグビーを実施することで、大会に向けた機運の醸成を図ります。</p>	<p>～R 2 (R3以降も継続予定)</p>	<p>市民局</p>	<p>・元ラグビー日本代表選手が市内の小学校（各区1校計18校）を訪問し、自らの経験等を語る講義及びタグラグビー体験の授業を実施（講師：今泉清氏、北川俊澄氏、齊藤祐也氏氏、廣瀬俊朗氏ほか）【再掲】</p>
<p><u>イ カウントダウンイベントの開催</u> ラグビーワールドカップ2019TMの開催期間となる2019年9月20日から11月2日を目途に、大会に向けての機運醸成を図るため、横浜国際総合競技場等で開催が予定されるラグビーの試合に併せ、各種イベントを実施し、大会の認知度や盛り上げにつなげていきます。</p>	<p>H29・30</p>	<p>市民局</p>	<p>・カウントダウンイベント実施（開幕100日前、1か月前、1週間前、決勝100日前）【再掲】 ・カウントダウンボード稼働：7か所（新横浜は大会開幕後にデザイン変更）【再掲】</p>
<p><u>ウ 日本代表戦やジャパントップリーグ等の試合誘致</u> 2019年に向け、ピッチの検証や運営シミュレーションを行うとともに、機運醸成やラグビー競技の普及を目的に計画的にラグビーの試合を誘致します。</p>	<p>～R元</p>	<p>市民局</p>	<p>・ジャパンラグビートップリーグ試合開催：4試合（ニッパツ三ツ沢球技場）</p>

柱2 スポーツを通じて横浜を元気に

分野:障害のある人もない人も同じようにスポーツ活動を楽しむことが出来るよう、広く社会全体に向けて、障害者スポーツの推進に取り組みます

主な取組の内容	目標時期	所管局	令和元年度の取組状況
<p>① 学校や地域のスポーツイベント等での障害者スポーツの実施、体験を通じた障害者スポーツの普及・啓発（パラリンピック競技体験等）</p> <p>ア 障害者スポーツの場の確保と種目の普及 地域団体・横浜市体育協会・横浜ラポール等が連携した地域ネットワークの構築支援や、新たに設置する障害者スポーツ・文化活動南部方面拠点（ラポール上大岡）を活用し、地域スポーツ指導者との連携を進め、自主的に取り組みやすい種目を地域に広げていきます。また、各区のスポーツセンター等における障害者スポーツの指導員の配置、用具の充実、プログラムの提供、よりわかりやすいスポーツ施設等の情報発信に取り組みます。</p>	<p>～R2 (R3以降も継続予定)</p>	<p>健康福祉局 市民局</p>	<ul style="list-style-type: none"> 障害者スポーツ文化センターラポール上大岡が令和2年1月10日開所 各区でボッチャ用具を貸出 各区のインクルーシブスポーツ推進事業にかかる派遣指導を実施 さわやかスポーツ推進委員・体協職員向けのボッチャ講習会を実施
<p>イ 障害の有無に関わらず、誰もが一緒に参加できるスポーツイベントの実施 障害者と健常者が共に楽しむことのできるイベントや大会の開催や、その支援を行うとともに、障害者スポーツ文化センター（横浜ラポール、ラポール上大岡）、障害者団体、競技団体、地域団体と連携しながら、各区のスポーツセンター等、地域で障害者・健常者がともに楽しめるインクルーシブスポーツ（※）を推進します。 ※インクルーシブスポーツ:共生社会の実現に向けた取組を推進する、各人の適正にあったスポーツ活動のこと</p>	<p>～R2 (R3以降も継続予定)</p>	<p>健康福祉局 市民局</p>	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ・レクリエーション事業の実施：10教室（延参加者数：5,077人） 第24回ハマピック開催：10種目（参加者数：688人）など 各区におけるヨコハマさわやかスポーツの普及活動（地域活動、講習会、大会、フェスティバル等）：開催回数 11,268回、参加者数 327,459人 17区でボッチャ・フェジータニス等のインクルーシブスポーツ体験会を実施（1区は新型コロナウイルスの影響により中止）
<p>② 障害者スポーツ文化センター（横浜ラポール、ラポール上大岡）と連携した取組、身近で活動できる場の確保、特別支援学校等におけるスポーツ活動の活性化など、スポーツ関係団体や障害者団体とも連携した障害者スポーツの推進</p> <p>ア 地域への障害者スポーツに関するノウハウの浸透 「障害者スポーツ文化センター（横浜ラポール、ラポール上大岡）」と協力・連携し、各区のスポーツセンターやスポーツ施設の職員等に、定期的（年1～2回）に研修を実施し、障害者スポーツの開始及び継続していくためのノウハウを有する人材の育成を進めるとともに、様々な場面で活躍できる仕組みづくりを進めます。</p>	<p>～R2 (R3以降も継続予定)</p>	<p>健康福祉局</p>	<ul style="list-style-type: none"> 人材育成（各種研修）事業の実施：計200回（12,600人参加）
<p>イ 特別支援学校におけるスポーツ選手育成強化事業 東京2020大会を契機に、障害者スポーツの普及・促進を行うほか、特別支援学校の児童生徒がスポーツで世界を目指すことを支援するなど、障害のある子どもたちの自立と社会参加につなげます。</p>	<p>～R2 (R3以降も継続予定)</p>	<p>健康福祉局 教育委員会</p>	<ul style="list-style-type: none"> 市立特別支援学校7校へオリンピック・パラリンピックを契機としたスポーツ用品購入のための予算配当
<p>ウ パラトライアスロンの強化 パラトライアスロン競技の強化拠点として横浜ラポールを提供しており、東京2020大会に向けて、競技の普及・強化に向けた取組を推進します。</p>	<p>～R2 (R3以降も継続予定)</p>	<p>市民局 健康福祉局</p>	<ul style="list-style-type: none"> 2019世界トライアスロンシリーズ横浜大会 観戦者：465,000人、参加者：1,700人（内パラトライアスロン参加者：97人）

柱2 スポーツを通じて横浜を元気に

分野:子どもたちの運動に親しむ資質や能力を育て、体力向上と、スポーツに関わる人材の育成に取り組みます(1/2)

主な取組の内容	目標時期	所管局	令和元年度の取組状況
<p>① 市内小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・特別支援学校と連携した取組 ア 「体力アップよこはま2020プラン・子どもの体力向上プログラム【後期5年の方針】」に基づく取組の実践 「体力アップよこはま2020プラン・子どもの体力向上プログラム【後期5年の方針】」に基づき、学校・家庭・地域の連携による体育・健康に関する取組を実践推進します。 また、市内小中学校全校で体育・健康に関する指導の全体計画である「体育・健康プラン」を作成し、プランに基づき、学校の特色を生かした「体力向上1校1実践運動」を実施します。</p>	<p>～R2 (R3以降も継続予定)</p>	<p>教育委員会</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各学校では、保護者や外部機関との連携による体力向上の取組を実施
<p>イ 食育の推進 日常生活をより健康的に送り、スポーツを活発に行うために、スポーツ団体(プロスポーツチームを含む)、教育委員会や食育関係団体と連携・協力しながら、子どもや保護者及び指導者等に食育の普及啓発を行っていきます。</p>	<p>～R2 (R3以降も継続予定)</p>	<p>健康福祉局 教育委員会</p>	<ul style="list-style-type: none"> 食育イベントの実施：2回 横浜市食育フォーラムの開催：1回 食育推進研修会の開催：1回 食育実践推進校の指定：15回 出前授業の実施：398校 栄養教諭を中核とした食育推進ネットワークの構築：69ネットワーク
<p>ウ 東京2020大会を契機とした、運動意欲の向上や運動機会の充実 東京2020大会を契機とし、オリンピック・パラリンピアン・トップアスリートとの交流等の機会を設けることやオリンピック・パラリンピック教育推進校での取組を通して、運動意欲の向上や、関係機関と連携した運動機会の拡充を図ります。</p>	<p>～R2 (R3以降も継続予定)</p>	<p>教育委員会</p>	<ul style="list-style-type: none"> 市教委主催の体育行事等にオリンピック・パラリンピアン等のトップアスリートを招へいし、小中学生との交流を実施(招へい大会数：7、招へい人数(団体含む)：8)【再掲】 オリンピック・パラリンピック教育推進校として30校(小24、中4、高1、特1)を設置し、年間を通してオリパラ教育を重点的に実施【再掲】 市立学校全校を対象に成果報告会を開催【再掲】
<p>エ 生きてはたらく知・豊かな心・健やかな体の育成 特色ある9年間一貫したカリキュラム・マネジメントを通して、未来社会に生きる子どもたちに必要な資質・能力を育成するとともに、「横浜市子ども学力向上プログラム」、「『豊かな心の育成』推進プログラム」、「横浜市子どもの体力向上プログラム」に基づき、取組を推進します。</p>	<p>～R2 (R3以降も継続予定)</p>	<p>教育委員会</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各学校が「横浜市子ども学力向上プログラム」に基づいて「学力向上アクションプラン」を作成し、組織的・計画的な学力向上の取組を推進できるよう、「横浜市学力・学習状況調査」の分析チャートを作成し全校へ配付 市立中学校、義務教育学校後期課程、特別支援学校中学部1年生(義務教育学校は7年生)全員に『礼儀・作法読本』を配付 各学校では、保護者や外部機関との連携による体力向上の取組を実施【再掲】
<p>オ 幼児期における運動習慣の啓発・普及活動 体力の重要性に関して、保護者への啓発セミナーや、ウェブ・健診等を活用した情報提供について検討していきます。また、親子で体験できる各種運動プログラムの提供や、保育園や幼稚園、地域子育て拠点等にスポーツ指導者を派遣し、遊びながら体を動かす楽しさを伝えていく事業を実施します。</p>	<p>～R2 (R3以降も継続予定)</p>	<p>子ども青少年局 市民局</p>	<ul style="list-style-type: none"> はつらつキンダー事業 実施回数：304回、参加者数：9,305人
<p>カ 子どもの体力向上事業の実施及び拡充 小学校の中休みや放課後の時間にスポーツ指導者や地域の協力者を派遣し、子どもたちが気軽にスポーツに親しめる機会を提供する「いきいきキッズ事業」を拡充し、実施していきます。 また、地元の大学と連携し、学校や地域に体育部所属の学生等を派遣し、授業の補助や教室事業等を実施します。</p>	<p>～R2 (R3以降も継続予定)</p>	<p>市民局</p>	<ul style="list-style-type: none"> いきいきキッズ事業 実施回数：705回、参加者数：76,829人

柱2 スポーツを通じて横浜を元気に

分野:子どもたちの運動に親しむ資質や能力を育て、体力向上と、スポーツに関わる人材の育成に取り組めます(2/2)

主な取組の内容	目標時期	所管局	令和元年度の取組状況
<p>② <u>横浜商業高等学校におけるスポーツマネジメント人材の育成</u> ア スポーツマネジメント人材の育成 横浜商業高校スポーツマネジメント科において、横浜市スポーツ医科学センターやプロスポーツ関係者等との連携とともに、トップアスリート、スポーツ関係研究者・経営者等に触れる機会を設け、競技力の向上及びスポーツ振興に関わる人材を育成します。</p>	<p>～R 2 (R3以降も継続予定)</p>	<p>教育委員会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師による講義 ・理学療法士の派遣 ・専属トレーナーの雇用 等

柱2 スポーツを通じて横浜を元気に

分野:本格的な超高齢社会の到来に伴い、生活習慣の改善や介護予防を進めるため、スポーツなどを通じた健康づくりに取り組みます(1/2)

主な取組の内容	目標時期	所管局	令和元年度の取組状況
<p>① ウォーキングなどの運動による生活習慣の改善や、日常生活の中で取り組める仕組みなどによる健康づくりの推進</p> <p>ア 健康づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歩数計やスマホアプリを活用した「よこはまウォーキングポイント」や、様々な健康行動を促す健康イベントなど、日常生活の中で楽しみながら継続して取り組める仕組みにより、市民の健康行動の習慣化を図り、地域とも連携しながら健康づくりを推進します。 ・ 東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて、望まない受動喫煙の防止を主たる目的に健康増進法が改正されました。これを踏まえ、本市において受動喫煙防止対策の取組を強化し、市民や来街者の健康に配慮した環境を整備します。 <ul style="list-style-type: none"> ○市内事業所や市民等への普及啓発、問合せへの対応 ○市内飲食店等における禁煙または喫煙等の標識掲示の徹底 ○受動喫煙防止対策の取組検討 	<p>～R2 (R3以降も継続予定)</p> <p>R2</p>	<p>健康福祉局 環境創造局 道路局 各区</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ よこはまウォーキングポイント参加登録者数：337,819人 (R2.3.31現在) ・ 第8回よこはま健康スタンプラリー応募数：14,954件 (R2.7～12月) ・ 健康横浜21推進事業 <ul style="list-style-type: none"> ・ 集団健康教育事業：18区 ・ 「健康横浜21推進会議」の開催：1回 ・ 地域人材育成・活動支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ 保健活動推進員事業：14,062回 (内訳：研修 1,346回、事業 7,708回、会議5,008回) ・ 食生活等改善推進員育成支援：663回 ・ 健康相談等 <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣改善相談：804回 ・ 神奈川区、緑区など7区で、案内板・距離標の設置、舗装新設、ハマサポベンチの設置 ・ 5区5公園で健康器具やウォーキングルートサイン設置等 ・ 冊子「公園で健康づくり」を配布し活用・周知 ・ 区と連携した健康づくりイベントを佐江戸公園 (都筑区)、みずが丘公園 (青葉区)、今宿東公園 (旭区) で開催 ・ 受動喫煙防止対策 <ul style="list-style-type: none"> ・ 有識者会議の開催：2回 ・ 広報用チラシ作成：375,000部 ・ 事業者向けダイレクトメール発送：44,946通 ・ 横浜市営地下鉄ホームドア広告：市内主要駅4駅 ・ コールセンター問い合わせ件数：2,652件 ・ 届出事務処理件数：3,315件
<p>② 高齢者も楽しむことができるスポーツの推進ほか生涯スポーツの推進</p> <p>ア 高齢者向けのスポーツ教室・イベントの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者のニーズが高い、健康づくりや体力づくりの教室などのほかに、介護予防教室など様々なニーズを考慮しながら、高齢者のスポーツ教室やスポーツイベントのより一層の充実を図ります。 ・ 横浜市オリジナル体操「ハマトレ」の普及啓発を実施します。横浜市歌にあわせた「ハマトレ～体験編～」を活用し運動に取り組むきっかけづくりを推進します。 	<p>～R2 (R3以降も継続予定)</p>	<p>健康福祉局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護予防に関する講演会、講座・教室等の開催回数：630回 参加者数：17,989人

柱2 スポーツを通じて横浜を元気に

分野:本格的な超高齢社会の到来に伴い、生活習慣の改善や介護予防を進めるため、スポーツなどを通じた健康づくりに取り組みます(2/2)

主な取組の内容	目標時期	所管局	令和元年度の取組状況
<p>イ 生涯スポーツへの支援(シニアスポーツの展開・レクリエーションを主体としたスポーツ大会の開催 等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツを通じて生きがいがづくりや社会参加を促進するため、シニアスポーツの展開を図るとともに、健康・体力づくり運動を推進し、暮らしの一部として習慣化することを支援します。また、スポーツ等に親しむことのできる機会や場の提供を推進します。 ・横浜市老人クラブ連合会などを通じ、健康の保持増進と高齢者相互の親睦を図るため、ゲートボール、グランドゴルフなどの各種スポーツや、レクリエーションを主体としたスポーツ大会を開催します。 ・高齢者を中心とするスポーツ、文化、健康と福祉の総合的な視点として毎年開催される「全国健康福祉祭(ねんりんピック)」に市代表選手団を派遣し、健康・スポーツ活動等の高揚を図ります。また、2021年神奈川県大会の開催に向け、スポーツを通じた高齢者の健康づくりの機運を盛り上げていきます。 ・身近な地域で健康づくりやスポーツ、レクリエーションに取り組めるよう、各区スポーツセンターで、子どもから高齢者までを対象とした各種スポーツ教室を開催します。 ・誰もが、いつでも、どこでも、いつまでも各自の興味やレベルに応じて参加できるよう多世代・多種目・多志向を理念とする総合型地域スポーツクラブの育成を推進し、高齢者や障害者をはじめ誰もが身近な地域でスポーツを実施する機会を提供します。 ・高齢者向けの健康づくりの取組として、健康づくりの場の創出に取り組みます。 	<p>～R 2 (R3以降も継続予定)</p>	<p>健康福祉局 市民局 環境創造局 各区</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各区におけるヨコハマさわやかスポーツの普及活動（地域活動、講習会、大会、フェスティバル等）：開催回数 11,268回、参加者数 327,459人【再掲】 ・体操ひろ場（延参加者数：約18万人） ・ゲートボール大会(参加者：30チーム選手182人) ・グラウンド・ゴルフ大会（参加者：選手108人）、講習会（延受講者数：47人） ・ペタンク大会(参加者：33チーム選手127人)、講習会（延受講者数：47人） ・スポーツリーダー養成講座開講 ・第32回全国健康福祉祭の国わかやま大会に横浜市選手団として参加（参加種目及び選手数：18種目・145人） ・高齢者・中高年健康教室：開催回数3,461回、参加人数123,087人、開催場所 各区スポーツセンター ・市内総合型地域スポーツクラブの設置 <ul style="list-style-type: none"> ・設置済：14区26クラブ（令和元年度末時点） ・市スポーツ協会を事務局としてクラブ設立に向けた相談・アドバイスを実施 ・クラブ間での情報共有等を実施 ・総合型地域スポーツクラブの普及啓発のため、イベント開催、チラシ配布、情報発信を実施 ・5区5公園で健康器具やウォーキングルートサイン設置等【再掲】 ・冊子「公園で健康づくり」を配布し活用・周知【再掲】 ・区と連携した健康づくりイベントを佐江戸公園（都筑区）、みずがが丘公園（青葉区）、今宿東公園（旭区）で開催【再掲】

柱3 文化芸術の創造性を生かしたまちづくり

分野: 横浜らしい特色ある芸術フェスティバルをはじめとした文化プログラムの実施により、まちににぎわいを創出するとともに、横浜の魅力を世界に発信します

主な取組の内容	目標時期	所管局	令和元年度の取組状況
<p>① <u>横浜トリエンナーレ、横浜芸術アクション事業など文化芸術創造都市・横浜ならではの文化プログラムの推進</u> <u>ア 文化プログラムの推進</u> 東京2020大会開催までの間、横浜トリエンナーレ、Dance Dance Dance @ YOKOHAMA、横浜音祭りを中核的な取組として実施します。 ・横浜トリエンナーレ事業 ・Dance Dance Dance @ YOKOHAMA(横浜芸術アクション事業) ・横浜音祭り(横浜芸術アクション事業)</p>	H29・R2 H30 R元	文化観光局	<ul style="list-style-type: none"> 「横浜音祭り2019」の開催 IBAへの継続的参加及び国際展関係者との交流(スロベニア:6月、チリ:12月) プレイベント「エピソード00 ソースの共有」を実施(参加者数:304人) 市民サポーター向けの講座やワークショップ等の開催(ガイドサポーター育成活動 申込者:129人)
<p><u>イ beyond2020プログラムの認証の実施</u> 国が進める文化プログラムの認証制度である「beyond2020プログラム(※)」の認証組織となり、国と連携して2020年に向けた機運醸成を図るとともに、認証業務を通じて、共生社会・国際化につながる市内の文化芸術活動を促進します。 ・文化プログラム推進事業 ※beyond2020プログラム:東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とし、日本文化の魅力を発信するとともに障害者や外国人にとつてのバリアを取り除く取組を対象に認証を行う制度</p>	～R2	文化観光局	<ul style="list-style-type: none"> beyond2020プログラムの認証の実施(認証件数:271件)
<p>② <u>環境技術を活用したアートイベント(スマートイルミネーション)やユニバーサルな文化事業(パラトリエンナーレなど)の実施</u> <u>ア 環境技術を活用したアートイベントの実施</u> 省エネルギー技術とアーティストの創造性を融合させた、新たな夜景の創造を試みる横浜ならではの国際アートイベントを実施します。 ・スマートイルミネーション事業</p>	～R2 (R3以降も継続予定)	文化観光局	<ul style="list-style-type: none"> スマートイルミネーション横浜2019を開催 来場者:106,000人
<p><u>イ ユニバーサルな文化事業の実施</u> ・障害のある方と多様な分野のプロフェッショナルとの協働により、新たな芸術表現を生み出す現代アートの国際展を開催します。 ○ヨコハマ・パラトリエンナーレ事業 ・「ヨコハマ・パラトリエンナーレ2020(仮称)」に向けてアートワークショップや支援者育成を実施します。</p>	H29・R2 ～R2	健康福祉局 文化観光局	<ul style="list-style-type: none"> パラトリエンナーレ2020開催準備 <ul style="list-style-type: none"> 福祉施設へのリサーチ:12施設 パフォーマンスオーディション 参加者数:51人 パフォーマンス稽古:10回 フードプロジェクト検討 みなとみらい本町小学校連携事業 <ul style="list-style-type: none"> 講演会 参加者数:約350人 ワークショップ 参加者数:約30人 パフォーマンス稽古見学会 参加者数:約30人 人材育成プログラム 参加者数:16名 障害者の文化活動を支援する人材の育成

柱3 文化芸術の創造性を生かしたまちづくり

分野:子どもたちの豊かな感性や創造性をはぐくむ文化芸術体験の充実や新進アーティストの支援といった次世代育成に取り組みます

主な取組の内容	目標時期	所管局	令和元年度の取組状況
<p>① <u>子どもたちの文化芸術体験の充実</u> ア 横浜トリエンナーレ事業を通じた次世代育成 横浜トリエンナーレ事業において、子どもたちが展覧会を鑑賞する機会をつくるなど、世界の芸術作品を身近に感じることができる取組を進めます。</p>	～R 2 (R3以降も継続予定)	文化観光局	・ヨコハマトリエンナーレ2020 次世代育成における取組の方向性を検討
<p>イ 横浜芸術アクション事業を通じた次世代育成 横浜芸術アクション事業（横浜音祭りやDance Dance Dance @ YOKOHAMA）において、学校にプロのアーティストを派遣し、ワークショップの開催などを通じて、次世代育成に取り組みます。 ・横浜芸術アクション事業（次世代育成）</p>	～R 2 (R3以降も継続予定)	文化観光局	・「横浜音祭り2019」開催 学校への出張コンサートやプロアーティストに学ぶワークショップなど次世代育成の取組を実施
<p>② <u>新進アーティストの発掘・育成・支援</u> ア クリエイティブ・チルドレン・フェローシップの実施 ・次世代を担う若手アーティストがキャリアアップ活動を行うためのフェローシップ型の支援を行います。</p>	H29～R 2 (R3以降も継続予定)	文化観光局	・アーティスト・クリエイターへの助成：採択件数7件 ・アーティスト・クリエイター向け相談窓口の運営：相談件数162件

柱3 文化芸術の創造性を生かしたまちづくり

分野: 一人ひとりの市民が、地域におけるさまざまな文化芸術活動に参加し、いきいきと活動できる環境の整備や文化芸術活動への支援を行います

主な取組の内容	目標時期	所管局	令和元年度の取組状況
<p>① 地域における文化芸術活動の拠点機能の充実</p> <p>ア 障害のある方の文化芸術活動を支援する環境及び仕組みの整備</p> <p>障害者芸術文化活動を支援する人材を確保します。また、カリキュラムの作成及び企画展を通じた実地活動の場を作り、支援人材の育成を図っていきます。これらの取組を通して、活動団体の更なる活性化を図り、将来的な協議会機能の構築を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者芸術活動支援ネットワーク構築事業 	<p>～R 2 (R3以降も継続予定)</p>	<p>健康福祉局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国際障害者交流センターとの共催による、国内外の障害者アーティストの入選作品展の開催：1回（参加者数：1,519人）
<p>② 地域課題の解決につながる文化芸術活動の支援</p> <p>ア 横浜の文化や芸術に係るあらゆる情報を一体的に発信する多言語対応の情報サイトの構築</p> <p>世界の注目が集まるこの時機を捉え、①鑑賞したい人、②発信したい人、③調べたい人（アーティストやアーカイブ）など、横浜の文化や芸術に係るあらゆる情報を一体的に発信する多言語対応の情報サイトを構築し、世界に向けて文化芸術創造都市・横浜のプレゼンスを高めるための準備を進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的文化芸術創造都市情報発信WEBサイトの構築 	<p>R 元</p>	<p>文化観光局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに総合的文化芸術創造都市情報発信WEBサイトを構築し、令和元年11月1日公開

柱3 文化芸術の創造性を生かしたまちづくり

分野:アーティスト・クリエイターなど創造的な人材と企業や地域との共同を推進し、創造的産業の集積・振興につなげ、創造性を生かしたまちづくりを進めます

主な取組の内容	目標時期	所管局	令和元年度の取組状況
<p>① <u>企業やNPO、大学等と連携したアーティスト・クリエイターの集積とビジネス機会の創出</u> <u>ア プラットフォームの設立・運営</u> アーティスト・クリエイターと企業、NPO、大学等の様々な団体会い交流する仕組み(プラットフォーム)を構築することで、相乗効果を生み出していくとともに、横浜の文化芸術創造都市施策の中核的役割を果たす体制づくりに取り組みます。</p>	H29～R 2 (R3以降も継続予定)	文化観光局	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワーク促進プログラムの実施：3回（参加者：116名） ・アーティスト・クリエイター向け相談窓口の運営：相談件数162件 【再掲】 ・クリエイタープロモーション用WEBサイトの運営：登録数52件
<p>② <u>アーティスト・クリエイター同士のネットワークづくり</u> <u>ア プラットフォームの設立・運営《再掲》</u> アーティスト・クリエイターと企業、NPO、大学等の様々な団体会い交流する仕組み(プラットフォーム)を構築することで、相乗効果を生み出していくとともに、横浜の文化芸術創造都市施策の中核的役割を果たす体制づくりに取り組みます。</p>	H29～R 2 (R3以降も継続予定)	文化観光局	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワーク促進プログラムの実施：3回（参加者：116名） 【再掲】 ・アーティスト・クリエイター協働プログラムの実施：1回 （参加団体：92組）

柱4 横浜を世界に魅せる

分野:「横浜ならではの」の魅力・コンテンツの発信により、国内外から人が訪れ、賑わう「千客万来のまちづくりを進めます」(1/3)

主な取組の内容	目標時期	所管局	令和元年度の取組状況
<p>① 横浜ならではの魅力創出とシティプロモーションの展開</p> <p>ア 横浜都心のまちづくりや、広域ネットワークの整備による、都市の魅力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 横浜都心（都心臨海部及び新横浜都心）のまちづくりや、広域ネットワークの整備により、都市活力を向上させ、多くの人を惹きつける都市づくりを推進します。 ○横浜駅周辺地区（（仮称）横浜駅西口開発ビルや駅前広場等周辺基盤の整備） ○みなとみらい21地区（国際業務機能の集積及び観光・エンターテインメントの推進） ○関内・関外地区（新市庁舎整備及び周辺とのアクセス性・回遊性向上の取組（（仮称）大岡川横断人道橋整備等）、旧市庁舎周辺のまちづくり等） ○山下ふ頭周辺地区（都心臨海部の新たな賑わい拠点の形成に向けた再開発の推進及び更地の暫定利用） ○東神奈川臨海部周辺地区（区画整理や再開発等による新たなまちづくりの推進） ○新横浜都心（都市環境の変化に適應した、適正な土地利用およびまちの活性化の推進） ○横浜環状北西線の整備による、広域ネットワークの形成 	<p>H29～R 2 (R3以降も継続予定) ※新市庁舎整備 ～R 2</p> <p>R 2</p>	<p>都市整備局 港湾局 道路局 総務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> 民間開発・基盤整備の取組推進 みなとみらい21地区：街区開発進捗率約89% (暫定施設含む 約93%) 関内・関外地区：本体工事や中層部の内部整備工事等を進め、令和2年1月にしゅん工 関内駅北口整備事業等の推進 旧市庁舎街区の活用事業者の決定 さくらみらい橋（旧仮称：大岡川横断人道橋）整備 <ul style="list-style-type: none"> 橋梁下部工と上部工の工事 郵便局前交差点部、河川渡河部の桁架設：完了 エレベーター設置工事の施工 山下ふ頭の再開発：事業推進 暫定利用に向けた来街者の安全対策等基盤施設整備 東神奈川一丁目：事業完了 東高島駅北：事業中 まちづくりの取組推進 横浜北西線：令和2年3月22日開通
<p>イ シティプロモーションの展開</p> <ul style="list-style-type: none"> 横浜の認知度やブランド力向上を図るため、ターゲットに応じた効果的な手法により、プロモーションを展開します。 都心臨海部におけるパーソナルモビリティツアーの実現に向けた実証実験を行います。 アジアに加え、英国をはじめとする欧州等にもターゲットを広げ、動画やSNSを活用した海外プロモーションを強化します。 外国メディアを活用し、スコットランド（英国）を対象としたプロモーションを実施し、横浜への関心・認知度向上を図ります。 	<p>H29～R 2 (R3以降も継続予定)</p> <p>R元～2</p>	<p>文化観光局 国際局</p>	<ul style="list-style-type: none"> 横浜市に関する意識・生活行動実態調査の実施 パーソナルモビリティツアー 公道実証実験の実施：128回実施 (参加者：357人) 重点プロモーション事業のメディア露出件数：52,755件 インスタグラムフォロワー数：61,323人(令和元年度末時点) ラグビーワールドカップ2019™を契機とした海外でのプロモーションを実施 <ul style="list-style-type: none"> 欧州テレビ等での番組・広告配信(ユーロニュース・ITV4)：1,915万人 (推定視聴者数合計) エアライン機内ビジョン(ANA・BA・カンタス航空)：671万人 (延べリーチ数) 渋谷スクランブル交差点デジタルサイネージ：25万人（リーチ数） 山手線車内ビジョン：67万人（リーチ数） 羽田空港内看板：72万人（リーチ数） スコットランド(英国)プロモーション業務委託：1回 スコットランドのインフルエンサーを横浜に招き横浜を取材してもらった 横浜のスタートアップ支援をはじめとするビジネス環境の魅力を、スコットランドのオンラインマガジンやビジネスメディア7媒体を通じて現地に発信

柱4 横浜を世界に魅せる

分野:「横浜ならではの」魅力・コンテンツの発信により、国内外から人が訪れ、賑わう「千客万来のまちづくりを進めます」(2/3)

主な取組の内容	目標時期	所管局	令和元年度の取組状況
<p>ウ 国内外からの集客の推進 国内外からの集客のため、誘客プロモーションと迎賓・観光施設の機能強化を推進します。 ○メディア・旅行会社を対象としたセールス活動やクルーズ旅客の横浜滞在・観光促進 ○国内向けセールス・プロモーションを実施 ○訪日観光客の横浜での滞在・観光の促進 ○国指定名勝三溪園を維持・保存するとともに、国内外からの集客及び日本文化発信の拠点として活用 ○外国人観光客を意識した、技能の展示や体験等を三溪園など観光施設等で実施</p>	<p>H29～R 2 (R3以降も継続予定) R元～2</p>	<p>文化観光局 経済局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・メディア・旅行会社等に対する海外誘客セールス：件数 646件 ・国内向けセールス・プロモーションの実施（12回） ・ニューツーリズムの推進（6作品） ・関東運輸局JV事業を活用した、関東圏の開催都市連携プロモーション：特設サイトページビュー数/約12.5万回、メディア招聘/英米豪から合計3組4名 ・BtoB現地セールス：JNTO JapanShowcase（豪州）、WTM2019（英国） ・RWC2019開催期間中のプレスツアー：17名参加 ・国指定名勝三溪園を維持・保存及び日本文化発信の拠点として活用 <ul style="list-style-type: none"> ・重要文化財である臨春閣の屋根葺替工事を実施するとともに、名勝庭園やその他建造物の修繕、維持管理に伴う経費に対する補助を実施 ・RWC2019開催期間中の週末を中心とした17日間、開園時間を延長してライトアップを実施するとともに、重要文化財建造物を舞台とした和楽器等の演奏会を開催（夜間入園者数：約1,600人） ・受入環境の向上（園内トイレのユニバーサルデザイン化改修（2か所）や多言語対応の拡充） ・外国人観光客を意識した、技能の展示や体験等の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ヨコハマ 和の匠展（三溪園 鶴翔閣） 期間：令和元年10月29日～11月1日（4日間） 内容：「和」の横浜マイスターによる作品展示、技能体験指導等 ・IoTプロダクト展示等での情報発信（横浜ガジェットまつり2019ブース出展） 期間：令和元年10月25日～26日（2日間） 内容：横浜芝山漆器を題材にした技能伝承のためのデジタルアーカイブ・VR教材化の技術の紹介 ・HAMA-TORY 期間：令和元年10月12日～13日（2日間） 内容：横浜マイスターなどの技能職者による技能体験指導、作品販売

柱4 横浜を世界に魅せる

分野:「横浜ならではの」の魅力・コンテンツの発信により、国内外から人が訪れ、賑わう「千客万来のまちづくりを進めます」(3/3)

主な取組の内容	目標時期	所管局	令和元年度の取組状況
<p>② インバウンド対応強化など千客万来のまちづくり</p> <p>ア 外国人観光客の受入環境の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光案内所の運営など国内外からの観光客の受入環境整備やユニバーサルツーリズムの推進 多様な文化圏からの観光客の受入環境整備や誘客の推進 横浜観光情報公式サイトの多言語対応強化、外国人観光客への情報拠点の機能拡充、市内事業者向け研修などの実施 災害発生時の避難先など、来訪外国人等の安心な滞在に向けた多言語情報をスマートフォン向けに提供します。 	<p>H29～R 2 (R3以降も継続予定)</p> <p>H30～R 2</p>	<p>文化観光局 国際局</p>	<ul style="list-style-type: none"> 市内3か所の観光案内所運営、民間観光案内所への支援（横浜見学会・市内事業者交流会の実施等） 市内事業者向けユニバーサルツーリズム理解促進のための研修実施：1回 RWC2019観戦客の回遊促進を目的とした競技場と観光地エリアを結ぶシャトルバスの運行：計100便 RWC2019観戦客の回遊促進を目的とした観光MICE共創推進事業の実施：計5事業 見本市への出展：1回 旅行会社・メディアの招請：2回 市内事業者向け研修の実施：1回 国によるスマートフォン向けアプリ「Safety Tips」のデータ公開を踏まえ、同アプリを活用した外国人向け災害情報の充実に向けた検討を実施
<p>イ 商店街のインバウンド対応強化への支援・プロモーションの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国人観光客が訪れやすい環境づくりに取り組む商店街に対して、ハード整備（Wi-Fi整備等）やソフト事業（多言語広報媒体の作成、キャッシュレス決済導入支援、一商店街一国運動等）への支援、セミナーの開催やコンサルティングなど、多様な支援を行います。 ウェブページやリーフレット、その他メディアを通じて、商店街の魅力を外国人観光客に発信します。 	<p>～R 2</p>	<p>経済局</p>	<ul style="list-style-type: none"> 補助金交付件数（一商店街一国運動）：18件 補助金交付件数（Wi-Fi整備・多言語マップ等）：5件 セミナー実施回数：1回 ウェブサイトでの多言語（※）による商店街の紹介：17エリア（※日本語、英語、中国語（繁体字・簡体字）、韓国語、仏語） 横浜商店街ガイドマップの配布：配架協力先を拡充するとともに、大型集客イベント（アフリカ開発会議、ラグビーワールドカップ等）で配布 商店街魅力発掘ツアー：2回

柱4 横浜を世界に魅せる

分野: 来訪者の滞在環境の向上や都心部での緑化(花)等により来訪者や市民が「居心地がいい」と感じるようなまちづくりを進めます(1/3)

主な取組の内容	目標時期	所管局	令和元年度の取組状況
<p>① バリアフリーの取組や案内サインの多言語化、通信環境の向上などによる快適な滞在環境の提供</p> <p>ア 会場周辺駅のバリアフリー化</p> <ul style="list-style-type: none"> 大会を通じて多くの来街者が訪れる鉄道駅のバリアフリー化を行い、誰でも快適に移動できる交通環境を整えます。 <ul style="list-style-type: none"> ○ J R 関内駅北口 ○ J R 石川町駅南口 	H29 H30	都市整備局	(H30で事業終了)
<p>イ 案内サイン多言語化など、案内環境の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国人観光客も含め、多くの来街者が、迷わず、円滑に目的地に到達できるための案内環境を整えます。 <ul style="list-style-type: none"> ○案内サイン等の整備 <ul style="list-style-type: none"> ◇都心臨海部及び新横浜周辺地区において、施設管理者や鉄道事業者などの関係者と連携し、道路・公園・鉄道駅等の案内サインの多言語化、統一化、連続性の確保など、来街者にとって分かりやすい歩行者用の案内・誘導サイン整備の実施 ◇市営地下鉄駅構内案内サインのリニューアル ◇公共サインガイドラインの改定検討 ○道路案内標識について、英語表記の改善や反転文字の活用 	R 元 ～R 2 H30 R 元	交通局 都市整備局 道路局 国際局	<ul style="list-style-type: none"> 都心臨海部・新横浜都心の公道上において、広告料収入を活用し、既存案内サインの再整備・新規案内サインの整備を実施 RWC2019の際に新横浜駅の共通駅構内案内図を作成し、駅等での案内に活用 4 駅（あざみ野駅、センター北駅、センター南駅、湘南台駅）リニューアル完了 道路案内標識 <ul style="list-style-type: none"> ・大型案内標識の路線番号追加：9 基 ・地点名標識の英語表記改善：167枚
<p>ウ 公衆無線LAN (W i - F i) 整備による、通信環境の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> みなとみらい21地区等 <ul style="list-style-type: none"> ○地区における主要な歩行者空間や結節点の屋外公共空間（公園・港湾緑地等）における、公衆無線LAN (W i - F i) の早期整備 	H29	都市整備局	<ul style="list-style-type: none"> 桜木町駅前歩行者広場、グランモール公園（美術の広場）、日本丸メモリアルパーク、象の鼻パーク、臨港パークに設置した既設施設の管理運用を実施
<p>エ 広告付案内サイン・公衆無線LAN (W i - F i) 整備</p> <p>国内外からの来街者に快適な滞在環境を提供するため、外国人観光客をはじめ多くの来街者が訪れる横浜都心部の公共空間（道路等）において、訪日外国人等からのニーズの高い公衆無線LAN (W i - F i) や、案内サインを整備し、良好な管理運営を行うことで、滞在環境の向上を図ります。</p>	R 元	都市整備局	<ul style="list-style-type: none"> 都心臨海部・新横浜都心の公道上において、広告料収入を活用し、既存案内サインの再整備・新規案内サインの整備 公衆無線LANサービスの提供を開始
<p>オ 良質な宿泊施設の立地促進による、滞在環境の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 都心臨海部や新横浜を対象に、宿泊施設の容積率緩和を通じて、外国人旅行者ニーズにも対応した良質な宿泊施設の立地を促進します。 	H29～R 2 (R3以降も継続予定)	都市整備局 建築局	<ul style="list-style-type: none"> 市街地環境設計制度に基づく許可実績：1 件

柱4 横浜を世界に魅せる

分野: 来訪者の滞在環境の向上や都心部での緑化(花)等により来訪者や市民が「居心地がいい」と感じるようなまちづくりを進めます(2/3)

主な取組の内容	目標時期	所管局	令和元年度の取組状況
カ きれいな街並みに向けた環境整備 <ul style="list-style-type: none"> ・清潔な街並みによる、居心地の良い環境の実現に向けて、会場周辺を対象に、以下の取組を行います。 <ul style="list-style-type: none"> ○歩道や市所有地・市所有施設について、大会期間にあわせた清掃等の実施 ○大会期間にあわせてポイ捨て・歩行喫煙防止のための呼びかけを集中的に実施 ○喫煙禁止地区の標識・標示・看板等の多言語化 ○公衆トイレ案内の多言語化、外国人向け利用マナー表示類の充実及び洋便器化等の改修推進 ○会場周辺や繁華街などのエリアについて、大会期間中、昼間の時間帯にごみが置かれないよう、焼却工場に夜間搬入可能な環境整備の実施 ○多くのお客様を迎える場所の、望ましい公共的機能(公衆トイレ・喫煙所)の検討、整備 	H30～R 2 R 元～2 H30～R 2 H29～R 2 H30 H29～R 2	資源循環局	<ul style="list-style-type: none"> ・RWC2019会場周辺の清掃、関内駅周辺ポイ捨てごみ量調査を実施 ・RWC2019会場周辺において、試合開催日当日に喫煙ルールの周知・啓発を実施 ・オリパラ競技会場周辺についての改修工事終了:計4か所(横浜駅東口駅前広場公衆トイレ、横浜駅東口タクシープラザ公衆トイレ、横浜駅西口公衆トイレ、関内駅南口公衆トイレ) ・平成31年1月より、工場24時間受入を開始
キ 快適な滞在を下支えする、安全・安心なまちづくりの推進 <ul style="list-style-type: none"> ・1日あたりの乗降者数10万人以上の駅(21駅)と視覚障害者利用施設の最寄駅(7駅)を対象に鉄道事業者に補助金を交付し、可動式ホーム柵の整備促進を図ります。 ・警察等と連携した合同査察を定期的実施するなど、繁華街における治安対策を強化します。 	H29～R 2 H29～R 2 (R3以降も継続予定)	都市整備局	<ul style="list-style-type: none"> ・補助対象28駅のうち、JR京浜東北・根岸線横浜駅、青葉台駅、京急線横浜駅、上大岡駅の合計4駅で可動式ホーム柵の使用開始 ・合同査察の実施:2回
ク 都心部公園の公園トイレの洋式化 <ul style="list-style-type: none"> ・観光公園である山下公園と港の見える丘公園、オリンピック・パラリンピックの野球・ソフトボール会場となる横浜公園のトイレの和式便器を、訪日外国人旅行者も利用しやすい洋式便器へと改修します。 	R 元	環境創造局	<ul style="list-style-type: none"> ・改修完了:26基(山下公園:19基、横浜公園:2基、港の見える丘公園:5基)
ケ 宿泊施設のバリアフリー化の促進 <p>東京2020オリンピック・パラリンピックを契機に、本市を訪れる高齢者・障害者等のお客様が安全かつ快適に過ごせる環境を整えるため、バリアフリー化に取り組む市内の既存の宿泊施設に対し、改修工事等に要する経費の一部を補助します。</p>	R 元	市民局	<ul style="list-style-type: none"> ・ホテル関係者の会合や交流会、メールマガジン等で延べ262社に制度説明し、うち15社に個別説明、3社にアドバイザー派遣を実施 ・申請のあった2社に対して補助金を交付
② 花や緑による賑わいの創出 ア 都心臨海部の緑花による賑わいづくり <ul style="list-style-type: none"> ・公園等の公共施設を中心に、緑花によるまちの賑わいづくりを進めます。 	～R 2 (R3以降も継続予定)	環境創造局	<ul style="list-style-type: none"> ・都心臨海部等の緑花の推進 ・緑花の維持管理
イ 第33回全国都市緑化よこほまフェアの開催 <ul style="list-style-type: none"> ・都心臨海部の緑化をはじめ、郊外部での緑の取組を含めて、緑や花で美しい街、横浜を内外にアピールします。 	～H29	環境創造局	(H29で事業終了)
ウ ガーデンシティ横浜の推進のための先導的な取組である「ガーデンネックレス横浜」の展開 <p>都心臨海部や郊外部の里山ガーデンを中心として、全市・地域で花と緑による街の魅力形成、賑わいの創出を図り、花や緑で彩られた美しい街、横浜を内外にアピールします。</p>	～R 2 (R3以降も継続予定)	環境創造局	<ul style="list-style-type: none"> ・都心臨海部での花と緑による街の新たな魅力創出と賑わいづくり ・郊外部の里山ガーデンでの花と緑による魅力創出 ・全市での花と緑による魅力創出(都心臨海部、郊外部、各区連携、地域の花いっぱい推進、広報・プロモーションの展開)

柱4 横浜を世界に魅せる

分野: 来訪者の滞在環境の向上や都心部での緑化(花)等により来訪者や市民が「居心地がいい」と感じるようなまちづくりを進めます(3/3)

主な取組の内容	目標時期	所管局	令和元年度の取組状況
<p>③ 都心臨海部における新たな交通による回遊性の向上</p> <p><u>ア 都心臨海部における回遊性の向上</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 都心臨海部において、まちの賑わいづくりや回遊性向上を図るため、令和2年6月頃の運行開始を目指し、連節バスを活用した「高度化バスシステム」を導入します。 河川や内港地区を中心として、市民等への開放を積極的に行う取組を進めるため、水上交通や水陸両用バスを軸とした新たな水辺の賑わい方策を官民協働で推進します。 都心臨海部における現エリアのポート拡充、及びエリア拡大を図り、コミュニティサイクルの更なる利便性向上を推進します。 	<p>R 2</p> <p>R 2</p> <p>～R 2 (R3以降も継続予定)</p>	<p>都市整備局 交通局 港湾局</p>	<ul style="list-style-type: none"> 高度化バスシステム <ul style="list-style-type: none"> 導入ルートにおける交差点改良やバスベイの整備等の実施 停留所設置 バス車両の製造 運転訓練の実施 情報案内システムの確立 官民協働による水上交通社会実験として、「秋たけなわ・よこはまクルーズ(10月～11月)」を実施(横浜日ノ出棧橋⇄ピア赤レンガ、横浜日ノ出棧橋→ぶかり棧橋、横浜日ノ出棧橋⇄ピア象の鼻) 東神奈川駅周辺地区へコミュニティサイクルの事業エリア拡大

柱4 横浜を世界に魅せる

分野:再生可能エネルギー等の活用や環境に配慮したライフスタイルの推進など、世界のモデルとなるスマートシティの実現を目指します(1/2)

主な取組の内容	目標時期	所管局	令和元年度の取組状況
<p>① エネルギーマネジメントの推進・再生可能エネルギー・水素等の活用</p> <p>ア 燃料電池自動車等の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 燃料電池バスや電気自動車などの環境車両を、会場・イベント等で活用することを検討します。 	～R元	温暖化対策統括本部 環境創造局 交通局	<ul style="list-style-type: none"> 燃料電池 (FC) バス <ul style="list-style-type: none"> FCバス導入に向けた関係者調整、大会期間中の活用について検討や関係者調整を実施 2019年9月運用開始 ディーゼルバス導入にかかる費用との差額分について、繰出し(補助)を実施 燃料電池自動車 <ul style="list-style-type: none"> 燃料電池自動車である公用車2台のナンバープレートをRWC2019仕様に付け替え 各種イベントへの参加:20回
<p>イ 再生可能エネルギーの活用及びプロモーション</p> <ul style="list-style-type: none"> 大会期間中の会場等での再生可能エネルギー等の活用(グリーン電力証書、市内公共施設での発電、EV・FCVによる給電など)や、焼却工場の余剰電力の活用(会場への自己託送)を検討します。 市内4か所の焼却工場を環境スポットとして、ごみ焼却により得られる再生可能エネルギーのプロモーションを行います。 <ul style="list-style-type: none"> 焼却工場で発電した電力で、ごみ収集車を充電するシステムの導入検討 金沢工場、鶴見工場において、隣接する下水道処理施設と連携し、大会期間中、再生可能エネルギーであるバイオマス発電のPRとして、見学受入の充実や焼却工場ライトアップ等の実施 	～R2 R2 R元	温暖化対策統括本部 環境創造局 資源循環局	<ul style="list-style-type: none"> グリーン電力証書の活用に向けた検討・関係者との調整 EVごみ収集車の導入にあたり、試験車両の運行に向けた検討
<p>② 環境に配慮したライフスタイルの推進</p> <p>ア 環境に配慮したライフスタイルの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 大会に向けて、公共交通の利用など温暖化対策の実践等、環境に配慮したライフスタイルの普及啓発活動を推進します。 市民や市内企業の省エネ等による温室効果ガスの排出削減を活用した大会関連イベント等のカーボンオフセットを検討します。 	～R2 (R3以降も継続予定) ～R元	温暖化対策統括本部	<ul style="list-style-type: none"> 様々なステークホルダーと連携して、環境に配慮したライフスタイルの普及啓発活動や環境教育を実施(YES講座376回、ライトダウンイベント1回、横浜市地球温暖化対策事業者協議会省エネ研修会3回等) 令和元年6月より横浜カーボンオフセットプロジェクトの参加市民・事業者を募集開始 令和元年度参加実績:市民約3万人、事業者2者
<p>イ 3Rの推進や、食品ロス削減の取組の、世界への情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> マイバッグ・マイボトルなどのリデュースの取組や、ごみの分別・リサイクルを紹介することで、横浜が推進している3R行動をPRします。 国際機関と連携しながら、世界の食糧事情と横浜市の食品ロス削減の取組を世界に情報発信し、資源の重要性をPRします。 	～R2 (R3以降も継続予定)	資源循環局	<ul style="list-style-type: none"> 3R夢クッキング講座・冷蔵庫収納術講座の開催:58回 土壌混合法実施器材の購入及び講座の開催:629回 食品ロス削減に向けたワークショップ等の開催:2回 市民の食品ロス削減メッセージ写真(3,760枚)をもとに「MOTTAINAIモザイクアート」を作成 横浜F・マリノスや横浜DeNAベイスターズと連携して、食品ロス削減やプラスチック対策をテーマとしたポスターを作成・掲示:2,668枚

柱4 横浜を世界に魅せる

分野:再生可能エネルギー等の活用や環境に配慮したライフスタイルの推進など、世界のモデルとなるスマートシティの実現を目指します(2/2)

主な取組の内容	目標時期	所管局	令和元年度の取組状況
<p>③ <u>みなとみらい21地区を中心に、スマートなまちづくりに向けた環境ショーケースとしての取組の推進</u></p> <p>ア みなとみらい2050アクションプランにもとづくスマートなまちづくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「エネルギー」「グリーン」「アクティビティ」「エコ・モビリティ」の4分野において、それぞれが連携したスマートなまちづくりを推進します。 ○パシフィコ横浜等にコージェネレーションシステムを導入し、地域冷暖房施設と連携するなどの、新たな取組の推進 ○第33回全国都市緑化よこはまフェアの開催を契機とした、歩いて楽しめる緑化空間の創出 ○ICTなど、先端技術を活用したイベントの実施 ○国内で実用化・技術開発の進むパーソナルモビリティなど、多様な次世代交通の体験の場の創出 	<p>H30</p> <p>R 2</p>	<p>温暖化対策統括本部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜スマートシティプロジェクト <ul style="list-style-type: none"> ・目標を達成 ・国庫補助を活用しているため成果報告等を実施 ・みなとみらい2050プロジェクト <ul style="list-style-type: none"> ・地域の企業等を中心とし、実証実験・普及啓発等を実施 (パーソナルモビリティを活用し、商業施設や福祉作業所等との連携により、移動に伴う社会課題の解決や新たな価値創出を目的として、シェアリングサービスの実証実験を実施) ・イベント内でのICTなどを活用した取組を実施

柱4 横浜を世界に魅せる

分野:世界に開かれた国際都市・ビジネスチャンスあふれる都市 横浜を発信します

主な取組の内容	目標時期	所管局	令和元年度の取組状況
<p>① MICE機能や客船の受入環境の強化</p> <p>ア MICE機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 新たなMICE施設の整備 <ul style="list-style-type: none"> ○横浜での開催需要に対応するため、パシフィコ横浜の隣接地（みなとみらい21中央地区20街区）に新たなMICE施設を整備します。 ○横浜駅方面からのアクセス性を向上させるため、臨港幹線道路を横断し、パシフィコ横浜ノース及び臨港パークに連絡する歩行者デッキを整備します。 	R 2	文化観光局 都市整備局 港湾局	<ul style="list-style-type: none"> ・MICE施設整備 本体工事：3月しゅん工 ・歩行者デッキの本体工事：完了（令和2年4月23日一部供用開始）
<p>イ 客船の誘致・受入機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大さん橋国際客船ターミナルのサービス拡充 <ul style="list-style-type: none"> ○出入国管理審査用ブースを増設し、大型客船寄港時の出入国審査に要する時間を短縮するなど、サービス拡充を図ります。 ○大さん橋1号線の渋滞緩和策として車線の拡幅整備を実施します。 ・物流ふ頭での客船の受入れ <ul style="list-style-type: none"> ○ベイブリッジを通過できない超大型客船の受入等、物流ふ頭での客船受入対応を行います。 ・新港ふ頭客船ターミナル整備 <ul style="list-style-type: none"> ○大さん橋国際客船ターミナルを補完する客船バース及び公民連携事業により客船ターミナル施設等を整備します。 ・超大型客船の受入機能強化 <ul style="list-style-type: none"> ○大黒ふ頭において、自動車専用船岸壁の改良に併せて、ベイブリッジを通過できない超大型客船の受入機能を強化します。 ・ホテルシップの実現 <ul style="list-style-type: none"> ○特色ある宿泊施設として観光需要を創出するため、クルーズ船をホテルとして活用するホテルシップを実現します。 	<p>～R 2 (R3以降も継続予定) H29</p> <p>～R 2 (R3以降も継続予定)</p> <p>R 元</p> <p>R 2</p>	港湾局	<ul style="list-style-type: none"> ・物流ふ頭での客船受入：32回（総寄港回数：188回） ・大黒ふ頭客船ターミナルの供用開始（平成31年4月）と円滑な受入の実施 ・新港ふ頭9号岸壁の完成 ・新港ふ頭客船ターミナルの供用開始（令和元年10月）と円滑な受入の実施 ・大さん橋1号線：拡幅した道路を供用 ・ホテルシップ <ul style="list-style-type: none"> ・ホテルシップに必要な基盤施設整備 ・山下ふ頭2号岸壁補修、防舷材改修 ・検査乗船等
<p>② ビジネス環境の向上とプロモーションの充実によるビジネス機会の拡大</p> <p>ア 企業立地における、横浜の魅力の発掘・構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国企業や外資系企業の目線で、横浜ならではの魅力を把握・構築し、発信します。 ・市内事業者等が市内（みなとみらい21地区等）で実施する、ラグビーワールドカップ2019TMを契機としたイベントやコンテンツ情報を集約し、国内外に広く発信します。 ・市内研究開発拠点、中小・ベンチャー企業等のプロダクトの展示の他、テクノロジーやデータを活用したスポーツイベントを開催します。 ・パシフィコ横浜等でのビジネスイベント来場者の参加に向けた市内イノベーション関連施設視察ツアーを実施します。 	R 元～2 (R3以降も継続予定)	経済局	<ul style="list-style-type: none"> ・RWC2019開催期間内の関連イベント情報を集約し一元的に発信（ウェブサイト及びSNSアカウント作成、情報発信、リーフレット作成、配布） ・横浜ガジェットまつり2019開催（出展ブース：104、来場者：延べ約6,000人）
<p>イ 外資系企業誘致に向けた効果的なプロモーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トップセールスにより、横浜への投資や進出を呼びかけるプレゼンテーションを実施します。 ・オンライン相談窓口の設置・リアリティのある横浜の魅力の発信を行います。 	～R 2 (R3以降も継続予定)	経済局	<ul style="list-style-type: none"> ・外資系企業に、横浜のビジネス環境をPRするプレゼン等を実施 ・オンライン窓口による相談受付、外資系企業向けの随時情報発信